

令和7年4月

ジョージア 安全の手引き

在ジョージア日本国大使館

住所：64b Ilia Chavchavadze Avenue, Tbilisi 0162（9階）

代表番号：（＋995－32）275－2111

目 次

I	<u>はじめに</u> ・・・・・・・・・・・・・・・・	1
II	<u>安全対策の基本的な心構え</u> ・・・・・・・・	1
III	防犯、トラブル防止の手引き	
1	<u>最近の犯罪発生状況</u> ・・・・・・・・	2
2	犯罪被害やトラブルの例と対策	
(1)	<u>最近の日本人の犯罪被害例</u> ・・・・・・・・	2
(2)	<u>各種防犯対策、トラブル防止対策</u> ・・・・・・・・	3
(3)	<u>薬物に注意</u> ・・・・・・・・	7
3	交通事情と事故防止	
(1)	<u>交通事情</u> ・・・・・・・・	7
(2)	<u>事故防止</u> ・・・・・・・・	7
4	<u>デモ・集会</u> ・・・・・・・・	8
5	<u>テロ・誘拐対策</u> ・・・・・・・・	8
6	<u>被占領地域など</u> ・・・・・・・・	8
IV	緊急事態に備える	
1	近年発生した災害など	
(1)	<u>自然災害</u> ・・・・・・・・	9
(2)	<u>紛争</u> ・・・・・・・・	9
2	<u>日頃の準備</u> ・・・・・・・・	9
3	<u>緊急時の行動</u> ・・・・・・・・	10

(資料) 緊急時の連絡先など

I はじめに

この資料は、最新の治安情勢や日本人を含む外国人の犯罪被害の実例などを基に、ジョージアに滞在する際の安全対策をまとめたものです。

既にジョージアに長期在留されている方や、これから旅行を計画される個人の方はもちろん、留学生を派遣する学校や出張者を送り出す企業など日本側の担当者の方も「安全の手引き」をご一読いただき、安全対策の一助としてご活用ください。

また、海外での安全対策の基本については、[外務省の「海外安全 虎の巻」](#) (PDF) も合わせてご参照ください。

※免責事項（この資料の内容について）

この資料に記載されている情報の正確さについては万全を期しておりますが、外務省及び当館は利用者がこの資料の情報をを用いて行う一切の行為について、何ら責任を負うものではありません。

II 安全対策の基本的な心構え

・“外国” にいることを忘れない

私たちは、意識しなくとも、「外国人」「日本人」として目立っています。日本で犯罪被害にあったことがない方がジョージアで被害にあうことは珍しくありません。

油断や慣れは危険です。常に犯罪者のターゲットとなり得ると認識し、自分や家族の安全は自分たちで守るという意識を持つことが安全対策の第一歩です。

・予防が最良の危機管理

事件・事故などに巻き込まれてしまった場合、身体的被害のみならず、警察官による事情聴取や通院などで多大な労力とストレスを抱え、心に大きな傷を負うことにもなります。日本と同じような救済措置を期待することはできません。基本的な安全対策を徹底することが最良の危機管理です。

・非常時の連絡手段を確保しておく

不幸にして犯罪被害にあった場合や予期せぬ事態に遭遇した場合、日本の親族や勤務先などの手助けは必要不可欠です。いざという時に支援が得られる方に必ず居所や連絡先を知らせ、連絡手段を確保しておくことは海外で生活する上で非常に大切です。

・情報の収集

ロシアによるウクライナ侵略や、ナゴルノ・カラバフにおけるアゼルバイジャンとアルメニアとの軍事衝突のように、国際情勢は急激に悪化する場合があります。渡航前や在留中は、ニュースなどで情報収集に努め、不測の事態が発生した場合に速やかに退避できる準備をしておくことが重要です。

外務省や当館が発出する最新の安全情報が受け取れるよう、

旅行者の方は「たびレジ」

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/index.html>

3か月以上滞在を予定される方は「在留届」 ※法律で義務付けられています

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/RRnet/index.html>

に必ずご登録ください。

Ⅲ 防犯、トラブル防止の手引き

1 最近の犯罪発生状況

ジョージア内務省が公表した統計（２０２４年）によると、人口当たりの一般犯罪件数は日本の約２倍で、数字上は日本と比べて極端に治安が悪い状態ではなく、海外旅行時の基本的な安全対策を行っていれば犯罪被害は防げるレベルの治安と言えます。（※ただし、警察に被害届を提出する場合、裁判に出廷することが条件とされるため、特に短期滞在の日本人旅行者の場合は時間の制約から被害届の提出をあきらめざるを得ない事例が発生しています。被害届を提出しない場合は、統計に計上されないため、統計が実態を反映していない可能性があることに留意する必要があります）

罪種別では、殺人は約２倍、強姦は約１．５倍、強盗は約９倍と凶悪犯罪の発生数は多く、刃物や銃器等の凶器が使用される事件も珍しくありません。また、日本人を含め外国人旅行者を狙った強盗や強制わいせつ、詐欺事件も度々発生しています。

商取引やアパート賃貸などで金銭を巡るトラブルも少なくないため、特に多額の商取引は慎重に行う必要があります。

2 犯罪被害やトラブルの例と対策

（１）最近の日本人の犯罪被害例

【強盗傷害】

- ・たまたま知り合った外国人をホテルの部屋に招いたところ、いきなり殴られ現金を奪われた

【ひったくり】

- ・物乞い（主に子ども）に取り囲まれ、財布などが入ったバッグを奪われた

【侵入窃盗】

- ・就寝中に自宅アパートに窃盗に入られ、貴重品を盗まれた
- ・外出中、ホテルの客室内に侵入され財布を盗まれた
- ・シェアハウスで仲良くなった他の宿泊客に所持金を持ち逃げされた

【スリ】

- ・地下鉄内で背負っていたリュックサックの中から財布、パスポートを抜き取られた
- ・スーパーで買い物中、バッグの中から紙幣在中の袋を抜き取られた

【恐喝】

- ・飲食店の裏で若者数人に囲まれ金を出すよう要求された

【強制わいせつ・強姦未遂】

- ・「宿泊先まで送る」と車に乗せてもらったところ人気のない場所に連れて行かれて性行為を強要されそうになった

- ・タクシー内で執拗に身体を触られた上、強姦されそうになった
- ・日中、人気の無い公園を散歩していたところいきなり背後から男に襲われた

【詐欺】

- ・タクシーアプリで呼んだタクシーと誤信させられ乗車したところ、到着時に高額な料金を請求された

(2) 各種防犯対策、トラブル防止対策

観光でホテルなどに宿泊する際の防犯対策

できるだけ警備員が配置され、防犯カメラが設置されているなどセキュリティがしっかりしているホテルなどを選ぶことが重要です。

値段の安さだけでホテルなどを選ぶと、「ドアの鍵が壊れている」ことや、「不特定多数の者が出入りできる相部屋である」など窃盗や強盗被害のリスクが高くなります。

- チェックイン、チェックアウト時は、荷物に対する注意が散漫になりやすいため、荷物をカウンターの上など目が届く位置に置く（大きな荷物もポーター任せにせず、十分な注意を払う）
- 外出するときは、ホテルの部屋に貴重品を残さないようにする。
- 部屋に入る際にも周囲に注意を払い、不審者がいないことを確認する。
- 来訪者があった場合、覗き穴やチェーンロックを活用して相手を確認し、ホテルの従業員でも不用意に入室させないようにする。また、独りの時には他人を部屋に入れない。
- レストランでの食事中においても、バッグなどの手荷物は目の届く範囲に置く。

住居の防犯対策、トラブル防止 ※「エアビー」などで長期在留する場合を含む

車や人通りが極端に少ない地域は避け、できれば警備員がおり防犯カメラが設置されているなど防犯面が考慮された住居を選定することが大切です。

空き巣や強盗を防ぐためには、防犯対策をできるだけ強固にし、犯人に「この家は入りにくい」と思わせることが重要です。

● 居住地（長期滞在場所）の選定

慣れない土地で長期滞在する場合、居住地の選定は重要です。治安が悪い場所や外国人（日本人）として目立ってしまう場所では犯罪のターゲットになるリスクが高いと言えます。長期滞在を計画する際は、事前に可能な限りその土地の情報収集に努めてください。

居住推奨地域（トビリシ）

ヴァケ（Vake）、サブルタロ（Saburtalo）、ゼモ・ヴェラ（Vera 地区）

のうち Petre Melikishvili 通りより南側のエリア)
これらの地区には国の機関や企業、外国公館などが所在し、警察のパトロールが頻繁に行われ、警備員が配置されている箇所が多いなど、防犯面で比較的安心な地域です。また、当館も近くにあります。

● 賃貸アパートなどに入居する場合の注意事項

長期在留する場合、賃貸アパートや一戸建て住宅を選ぶことが一般的ですが、退去を申し出た後に不当に高額なクリーニング代や経年劣化の箇所の修理費を請求されたりするなどのトラブルが複数発生しています。

中には大家の要求に応じないことに対して電気やガスを強引に止められたり、室内に監禁されたりしたケースもあります。こうした場合に警察に通報しても民事不介入を理由として対応してくれません。

トラブルを防ぐためには、できるだけ過去に日本人が居住した実績がある物件や信頼できる現地の知人などが責任を持って仲介してくれる物件を選ぶこと、契約時には契約書を確認し、入居時に室内外の写真を撮って証拠化しておくことなどの対策に努めてください。

● 具体的な防犯対策

- ・ アパートであれば、1 階、2 階及び最上階を避け、中層階を選定する。
空き巣の傾向として、1 階が最も侵入しやすく、次に 2 階、そして最上階となります。
- ・ 独立家屋であれば、敷地外周壁などが堅牢な造りで容易に侵入できないところを選定する。
- ・ 人目のつかない場所や犯行の足場となる樹木が近くにある住居は避ける。
- ・ 出入口扉（玄関）は金属製などの頑丈なものが望ましい。
- ・ 出入口扉には複数の施錠設備を整え防犯対策を強化する。（「戸締まり」は防犯の基本）
- ・ 扉には覗き穴、安全チェーンを取り付け、扉を開けずに来訪者を確認できるようにする（カメラ付きインターホンの設置も有効）。面識のない来訪者の場合、身分証明書などで身分を確認するまでは絶対に扉を開けない。来訪者が警察官などの場合でも、身分証明書の提示を求め、確実に身分などを確認する。
- ・ 窓、扉などに防犯センサーを取り付け、不法な侵入を受けた際に威嚇サイレンを鳴らす、フラッシュライトを点灯させる。
- ・ 不在期間をむやみに他人に漏らさない、自宅の照明、ラジオなどをつけたままにして留守だと思わせない、信頼のおける同僚・知人に留守宅の世話を依頼するといった配慮や工夫をする。
- ・ 在宅時、就寝時においても戸締まりは確実に確認する。

- ・ 外出時には戸締まり、火の始末を今一度確認し、扉の覗き穴などから周囲の状況・安全を確認してから扉を開ける。
帰宅時も外出時と同様、自宅周辺に不審者が潜んでいないか確認してから自宅に入るようにする。特に深夜帯は注意が必要。

金銭トラブル防止対策

金銭トラブルの例として、

- ・ 流しのタクシーを利用したところ高額な料金を請求された（多数）
- ・ 公園などでパフォーマンスを見ていただけやパフォーマーと一緒に写真を撮ったところ料金を請求された
- ・ 親切を装って連日高額なベビーシッター代を請求された

など多数発生しています。

いずれのケースでも、料金の有無や金額が明示されておらず、サービスの提供を受けた後に請求されています。また、相手方の態度が威圧的でしつこく断わりにくいことが特徴です。

金銭トラブルは詐欺には該当せず、“民事案件”として扱われ、警察では対応してくれません。

- 親切を装ってサービスや物品の提供を申し出る者に注意する。（“タダ”はない）
- サービスの提供を受ける場合や商品を購入する場合は、必ず事前に料金を確認し、納得した上で提供を受ける。（ただし、何かと理由をつけて最初に説明された金額より高額な請求をされる場合もあることに注意する必要があります）
- 客が外国人であれば地元の人よりも高額な請求を受けることもあるため、料金が不明のサービスはできるだけ利用しない。
- 金額が明示されるタクシーアプリを利用する。流しのタクシーは使わない。

屋外の防犯対策～強盗、ひったくり、暴力行為など

ジョージア国内ではナイフなどで武装した犯人による強盗やひったくり、暴行事件などが繁華街を中心に発生しています。

犯人は隙があり狙いやすい人を探し犯行に及びます。「自分は狙われているかもしれない」との意識を持ち、基本的な防犯対策を行うことが被害にあうリスクを下げることになります。

被害多発地区（トビリシ市内）

以下のような観光客が多い場所周辺では特に注意してください。

旧市街、自由広場（Liberty Square）、ルスタヴェリ通り（Rustaveli）、ルスタヴェリ駅、ギオルギ・アフヴレディアニ通り（Giorgi Akhvlediani）、マルジャンシヴィリ駅（Marjanishvili）

- 特に繁華街や市場、駅周辺などの人の多い場所では、スリ、置き引き、ひったくりなどに注意する。
- バスや鉄道に乗る場合は、貴重品は網棚や席から離れた荷物置き場に置かない。
- トートバッグなど口が開いたバッグやズボンの後ろポケットに貴重品は入れない。
- 人混みの中ではバッグは前に抱えて持つ。
- 物乞い（子供の場合もあり）から声をかけられた場合は立ち止まることなく、速やかにその場を離れる。
- 特に夜間の一人歩きは避け、二人以上で行動する。
- 目的地までは安全な交通手段を利用する。
- 銀行のＡＴＭなどで現金を引き出す場合は、暗証番号や現金を他人に見られないようにし（日本のＡＴＭのように目隠しがある場所は少ない）、一度に多額の現金を引き出さない。歩道など屋外に設置されたＡＴＭは使用しない。
- 万が一強盗に遭遇した場合は、無駄な抵抗はせず、無抵抗の意志を示します。あわてて現金などを渡そうと服やポケットに手を入れると、相手は武器を取り出そうとしているのではないかと誤解しかえって危険なため、努めて落ち着いてゆっくり行動する。

現金、カード、パスポートは、

- ・肌身離さず持つ
- ・分散して持つ
- ・時々紛失していないか確認する

ようにしてください。

一度に全て失った場合、ホテルに宿泊したり、日本から送金を受けることなどができなくなります。

その他生活上の注意事項

● 狂犬病

毎年日本人が犬に咬まれる事故が発生しています。ジョージアでは町中に犬が多く見られ、行政が予防接種を行っています。犬の感染例は毎年報告されており、感染して人が亡くなるケースもあります。

感染防止のため、犬や猫などには近寄らず、触らないことが無難です。

もし咬まれたり引っかけられたりした場合は、必ずワクチンを接種してく

ださい。

詳細は、外務省「[世界の医療事情](#)」をご参照ください。

● 停電・断水

停電・断水が発生することは珍しくなく、数日復旧しない場合もあります。普段から懐中電灯やろうそく、数日分の水を用意しておくこと、携帯電話は充電しておくことをお勧めします。

（３）薬物に注意

ジョージアでは薬物犯罪は無期懲役まで課される重罪です。

ジョージア内務省は薬物関連犯罪の取締りを強化しており、外国人が頻繁に逮捕されています。２０２４年中の薬物関連犯罪の検挙数は、人口比で日本の１０倍となっています。

薬物を譲り受けたことや買うなどして警察に逮捕された場合、裁判のために数ヶ月間拘留所に勾留されることに加え、日本のような刑事弁護や通訳人の付与制度は十分とは言えないため、必要な弁護を受けることも極めて困難です。

有罪となった場合は長期の懲役刑を課される危険があります。

また、共犯を疑われるおそれもありますので、薬物使用が疑われる者との交友は厳に避けてください。

「ジョージアでは大麻は合法」などのインターネットの書き込みや他人の誘いに乗って安易に薬物に手を出すことはやめてください。

３ 交通事情と事故防止

（１）交通事情

一般車だけでなく、公共バスやタクシーも含め、運転手は規範意識に乏しく、スピード違反、歩道走行、幅寄せ、割り込み、通行区分違反（逆走）、信号無視などの重大事故に直結する危険運転が日常的に見られ、統計によると、ジョージアにおける２０２４年中の交通事故による死者数は人口比で日本の５倍以上となっています。

また、物損事故、人身事故に限らず、事故発生後に警察に通報することなく加害者側が立ち去ることも少なくないことや、保険に加入していない場合もあるため、交通事故の被害にあった場合に適切な救護措置や補償が得られない可能性があります。

（２）事故防止

歩行中は常に周囲の安全を確認し、特に小さい子供を連れている場合は目を離さないようにしてください。

路線バスの事故も少なくありません。バス乗車時はできるだけ席に座る、立って乗る場合は握り棒を常に掴む、シートベルトがある場合は着用するなどの

安全対策を行ってください。

地方へは安価な乗り合いバス（マルシュルートカ）を利用して旅行することが可能ですが、タイヤの溝が削れているなどの整備不良車や安全運転意識に乏しい運転手も珍しくないため、道路状況が見えにくい夜間帯や地面が凍りやすい冬場の移動は極力避けることが無難です。

4 デモ・集会

2024年5月から6月にかけて「外国の影響力の透明性に関する法律」（いわゆる「外国エージェント法」）に反対する大規模な抗議活動がトビリシ市内を中心として行われました。また、同年10月以降、議会選挙の結果などを受けた抗議活動がトビリシ市内や地方都市で頻繁に行われており、参加者が負傷したり、外国人を含む逮捕者が多数出ています。

2025年10月には地方選挙が予定されており、過去の例からも選挙前後には主義主張の異なる勢力が物理的に対立することも予想されます。

日頃からニュース等を通じて情報収集に努めるとともに、デモ等が行われている場には身の安全のため不用意に近づかないように注意してください。

5 テロ・誘拐対策

近年、ジョージア国内においてテロは発生しておらず、テロリスクは比較的低い水準にあります。また、外国人を標的とした誘拐事件の発生は見られません。

ただ、過去に国際テロ組織「ISIL」に戦闘員として渡航した者が多数おり、地理的に近い北コーカサスや中東の情勢に影響を受け易い地域であるため、引き続きテロに対する警戒は必要です。

テロ・誘拐対策に関する詳細は[外務省海外安全ホームページ](#)（テロ・誘拐情勢）をご参照ください。

6 被占領地域など

● アブハジア及びツヒンヴァリ（南オセチア）（レベル3：渡航中止勧告）

ジョージアの被占領地域であるアブハジア及びツヒンヴァリ（南オセチア）では、アブハジア及び南オセチア「当局」が法的な根拠なく支配を続けており、それぞれの行政境界線付近では、周辺住民の身柄が拘束されたり射殺されたりするなど、緊張が続いています。

同地域ではジョージア政府の統治が及んでおらず、同地域に入域し何らかのトラブルに巻き込まれた場合は、ジョージア政府及び在ジョージア日本国大使館が援護措置を講じることが極めて困難です。

また、ロシアから同地域への入境はジョージア国内法で処罰の対象となります。

どのような目的であれ同地域への渡航は止めてください。

- ロシアとの国境周辺（レベル2：不要不急の渡航中止）

特に山間部の国境は不明確な場所が多く、過去にはトレッキングで誤ってロシア領に入り外国人が拘束されたケースもあります。登山などを行う場合は、国境に近付かないよう、地元のガイドに案内を依頼することをおすすめします。

また、現在ロシア全域に渡航中止勧告（レベル3）以上が発せられています。ジョージアからロシアへの入国はしないでください。

ジョージアの危険情報の詳細は、[外務省海外安全ホームページ](#)（危険・スポット・広域情報）をご参照ください。

IV 緊急事態に備える

自然災害、内乱、クーデターなどの緊急事態に備え、食料・飲料水の備蓄、緊急時の連絡方法の整備、避難場所の確認など日頃から十分な準備をすることが大切です。

1 ジョージアにおいて近年発生した災害など

（1）自然災害

地震災害については、近年大規模な地震は発生していませんが、統計ではジョージア国内においてマグニチュード4程度の地震は月1回以上発生しており、地震と無縁な地域ではありません。

2015年には豪雨災害が発生し、トビリシ市内中心部に大きな被害が出ました。最近では地方で豪雨に伴う土砂災害が発生しており、山間部のリゾート地で滞在していた外国人客が多数犠牲になっています。

（2）紛争

2008年には、アブハジア及び南オセチア問題、ジョージアのNATO加盟に向けた動きなどを背景に緊張関係が続く中、ジョージア軍と南オセチア軍の軍事衝突にロシアが介入したことで、緊張は武力紛争に発展。EU等の仲介により停戦したものの、ロシアが南オセチア及びアブハジアの独立を一方的に承認したことでジョージアはロシアと外交関係を断絶した状態となっています。

2 日頃の準備

- 情勢の把握

緊急事態が発生して被害を受けたり、逃げ遅れたりすることのないよう、インターネット、テレビなどを通じ、情報収集に努めて下さい。

「たびレジ」または「在留届」は必ず登録し、大使館からの情報が受け取れるようにしてください。

- 連絡手段の確保

緊急事態（大規模災害、政情不安に伴う騒擾、テロ事件など）発生時には、安否確認、避難などのため、大使館から在留届などに基づき皆様に連絡します。

そのため、携帯電話番号やメールアドレスに変更がありましたら、[オンライン（ORR ネット）](#)で変更手続きをお願いします。オンラインでの手続きができない方は、大使館までご連絡ください。

- 携行品及び非常用物資の準備

緊急時には、旅券、現金、貴重品及び必要最低限の物品が直ちに持ち出せるよう保管して下さい。非常用の物資として、食料、飲料水、医薬品などを常備して下さい。

また電気や水道などのインフラが麻痺することを想定して、携帯電話は十分充電された状態にし、予備バッテリーを準備しておく、懐中電灯やろうそく、最低3日分の食料や飲料水は確保しておくようにしてください。

また、緊急事態発生時には速やかに国外退去できるよう、**有効な旅券と帰国に必要な資金を確保しておくことは最低限必要です。**

- 避難場所の確認

自然災害、内乱、騒乱が発生した場合に備え、緊急事態に応じた避難場所（外部との連絡が取れる場所）を検討しておいて下さい。万が一自然災害、内乱、争乱などが発生した場合は、危険な場所に近づかないよう注意して下さい。

3 緊急時の行動

緊急事態が発生した際は、できるだけ平静を保つよう心がけてください。特にSNS上では嘘の情報が出回っている可能性があります。デマや群集心理に惑わされることのないようご注意下さい。

- 国外への退避

緊急時には航空便の運航がストップしたり、陸路国境が閉鎖されたりする場合があります。あらかじめ緊急事態が予想される場合は、大使館から随時情報を発信しますので、出国が困難になる前に速やかに国外へ退避してください。

- 大使館への連絡

事態が悪化し、ご自身または企業などの判断により、自発的に帰国、第三国などへ退避される場合には、大使館へ連絡して下さい。また、大使館から国外退避などの連絡があった場合には、その指示に従って下さい。その場合の退避手段については大使館よりご連絡します。

(資料)

緊急時の連絡先などをまとめたものです。印刷して携帯するなどしてご活用ください。

【緊急連絡先】

○警察・消防・救急などの緊急時 112

～緊急通報アプリ「112GEORGIA」～

事前に氏名などを登録しておくことで、通報者の情報や事件現場の位置などを警察・救急に迅速に通報できるアプリです。

※ジョージア内務省が提供しているサービスで、当館がその有効性や動作を保証するものではありませんのであらかじめご了承ください。

○ガス関係のトラブル 114

○日本大使館

住 所：64b Ilia Chavchavadze Avenue, Tbilisi 0162 (9 階)

電 話：+995-32-2752111 (代表)

メール：consular@tb.mofa.go.jp

【病 院】

外国人の場合、医療費は 100%自己負担となるため、高額となる場合があります。また、医療機関や措置の内容などによって先に医療費を支払わなければ診療が受けられない場合もあります。万が一に備えて自身の海外旅行保険の内容をご確認しておくことをお勧めします。

● Mediclub Georgia (<http://mcg.ge/1/eng/>)

住所：22a Tashkenti Street, Tbilisi

連絡先：(+995-32) 225-1991

概要：医療スタッフの多くは英語を理解します。小児科医も常駐しており乳児健診、ワクチン接種も可能です。クレジットカードが使用可能です。24時間救急対応。

● New Hospitals (<http://www.newhospitals.ge>)

住所：12 Krtsanisi Street, Tbilisi

連絡先：(+995-32) 219-0190

概要：ひと通りの先進的な医療機器などを揃えている総合病院で、特に眼科が充実しています。急患は小児科救急を含めて 24 時間対応です。

● American Hospital Tbilisi (<https://ahtbilisi.com>)

住所：17 Ushangi Chkheidze Street, Tbilisi

連絡先：(+995-32) 200-9009

概要：総合病院で医療スタッフは英語を理解します。時間外診療もあり、クレジットカードが使用可能です。

● Preventive Medicine And Immunization Centre (ワクチン接種のみ)

住所：10a Tashkenti St, Tbilisi

連絡先：(+995-32) 231-2278

概要：入院設備のない小さいクリニックですが処置室があり、犬にかまれた場合の狂犬病ワクチンの接種が 24 時間可能です。同時に傷の処置も受けられます。

【緊急時のジョージア語】

助けを求める

○助けて下さい。

მიშველეთ

○私は日本人です。名前は_____といいます。

იაპონელი ვარ. _____ მქვია.

○(警 察 / 病 院 / 消 防 署) に電話してください。

(პოლიციაში/ საავადმყოფოში/ სახანძროში) დარეკეთ.

○日本大使館に電話してください。電話番号は 275-2111 です。

იაპონიის საელჩოში დარეკეთ. ნომერია 2751111.

○電話を貸して下さい。

ტელეფონი მათხოვთ.

○(警 察 署 / 病 院 / 日本大使館) まで連れて行ってください。

(პოლიციაში/ საავადმყოფოში/ იაპონიის საელჩოში) წამიყვანეთ.

病院で診断書などをもらうとき

○領収書(診断書)を発行してください。

გთხოვთ მომეცით ქვითარი (სამედიცინო ცნობა).

怪我をしたとき、具合が悪いとき

○救急車を呼んで下さい。

სასწრაფო გამოიძახეთ.

○(頭 / 腕 / 足 / 胸 / お腹) を怪我しています。

(თავი/ ხელი/ ფეხი/ მკერდი/ მუცელი)

დამიშავდა.

○(頭 / 腕 / 足 / 胸 / お腹) が痛いです。

(თავი/ ხელი/ ფეხი/ მკერდი/ მუცელი) მტკივა.

○犬に咬まれました。

ძაღვმა მიკბინა

盗難に遭ったとき、紛失したとき(警察署への届)

○(お金 / 財布 / 携帯電話 / バッグ) を盗まれました(紛失しました)。

(ფული/ საფულე/ მობილური ტელეფონი/ ჩანთა) მომპარეს (დაგვარგე).

○日本語の通訳を呼んでください。

გთხოვთ დაუკავშირდეთ იაპონურის თარჯიმანს.

○紛失証明書を発給してください。

გთხოვთ მომეცით ცნობა.